# 身体表現活動のなかで子どもは何を得ているのか

## - 描画表現の変容の分析を手立てとして -

幼児教育選修　八木佑奈

### Ⅰ問題と目的

保育現場では、身体表現活動の展開や指導援助に困難さを感じている保育者が多い[1)]。子ども固有の表現様式としての一回性[2)]という身体表現活動の特性に、その原因の一端がある。身体表現活動のなかで、子どもが何を感じ、何を得ているのかということが分かれば、その後の指導の手立てを講じることができるのではないだろうか。本研究では、保育現場で展開される身体表現活動において、子どもたちは何を得ているのか知ることを目的とした。

身体表現は、描画表現などとは異なり、何かに残しておくということができない[3)]ため、子どもが、その場で何を感じているのかということを読み取ることが難しい。一方、描画表現は、表現したものが絵として残るため、絵から子どもの心を読み取ることは、比較的可能だといえる。しかし、表現活動の特性としての違いはあっても、身体表現、描画表現共に、子どもにとっては、心の中のものを外に表す行為である。身体表現での心の表れは、描画表現にも表れるのではないか。先行研究[4)]では、「木」をテーマに身体表現活動をした前後の描画表現が様々に変容したことが報告されている。そこで本研究では、身体表現活動において、子どもたちは何を得ているのかを知る手だてとして、身体表現活動前後の描画活動の変容を分析し、考察することを試みた。

### Ⅱ研究方法

#### 1 対象

対象は、岡崎市内私立Ｔ幼稚園５歳児Ｈ組 27 名（男児 14 名、女児 13 名）、Ａ組 29 名（男児 18 名、女児 11 名）の計 56 名であった。

#### 2 題材

身体表現活動、描画活動の題材は「雲」とした。子どもの描画における技法の能力の差が生まれにくいということと、子どもにとって身近な題材であり、日常の経験に差が出にくいという観点から、題材を「雲」とした。身体表現活動では、「いろいろな形の雲」「雨雲」「飛行機雲」「雷雲」「夕焼け雲」「自分の好きな雲」の６つの場面を設定した。

#### 3 実験の手順

日時：2014 年 11 月

場所：岡崎市内私立Ｔ幼稚園の保育室

手続き：1 日目（11 月 6 日）に「雲」を題材とした１回目の描画活動を行い、2 日目（11 月 14 日）に身体表現活動を行った後、2 回目の描画活動を行った。描画活動は、2 クラス同時に行い、水色の八つ切り画用紙とクレヨンを使用した。

１回目の描画活動は、導入として、雲の写真（積雲、雨雲、飛行機雲、雷雲、夕焼け雲）を子どもに提示し、活動時にも写真を保育室の中のさまざまな場所に設置した。題材の説明として、「あったらいいなと思う雲、自分の好きな雲を描いてください」と子どもに教示した。

身体表現活動は、2 クラスの子どもを、20 名程度のグループに分け、3 グループ行った。身体表現活動の前に、体を使った簡単なリズム遊びを行い、その後の身体表現活動を、本調査とした。保育室にビデオを 3 台設置し、対象児の動きが重なって見にくいという問題の解決を図った。2 回目の描画活動は、写真は提示せず、教示は 1 回目の描画表現と同様に行った。

#### 4 分析の方法

##### 4.1 身体表現の分析

ビデオに収録した身体表現活動は、場面ごとに、表 1 に示した身体表現を捉える観点の各項目の基準に従って 3 段階で評価を行い、対象児の評価点とした。評価の観点は、鈴木[5)]が示した身体表現を捉える観点の項目に依拠して行った。

##### 4.2 描画表現の分析

身体表現前と身体表現後の 2 枚の絵を見比べた感想を 6 名の評価者に口述してもらい、その様子をビデオに収録した。その際、身体表現前の描画表現の前に、「積雲」「雨雲」「飛行機雲」「雷雲」「夕焼け雲」の写真を提示したということ、1 回目の描画表現と 2 回目の描画表現の間に、「雲」を題材とした身体表現活動を行い、「いろいろな雲」「雨雲」「飛行機雲」「雷雲」「夕焼け雲」を身体表現したということを、伝えた。評価者に、2 枚の絵が、身体表現の前後の絵であることを明示した。バイアスは掛かるが、評価者は、絵の専門家かつ身体表現の専門家というわけではない。評価を言葉にすることの心理的負担を与えないようにするためである。また、身体表現での様子は、基本的に伝えなかったが、質問に答えることはあった。ビデオに収録した、各評価者の言葉を文字に起こし分析を行った。評価者と各評価にかかった時間は、以下の通りである。

表１　身体表現を捉える観点

| 項目 | 具体的な観点 | 得点の基準 |
|---|---|---|
| ①　イメージの具体性 | 題材へのイメージを具体的に表現している。<br>なりきって表現している。 | ３：明確なイメージをもってなりきって表現している<br>２：イメージを漠然ともってなりきろうとしている<br>１：イメージがもてず、なりきれていない |
| ②　イメージの独自性 | 他の子どもが思いつかない独自の表現をしている。 | ３：たいへん独特である<br>２：他の子どもの模倣ではないが一般的である<br>１：他の子どもの模倣であるまたはイメージを持っていない |
| ③　動き方の豊かさ | 動きの種類、体の使い方、表情の在り方。<br>雰囲気を楽しんでいる。 | ３：多様な動き、のびのびと大きくつかう、豊かな表情<br>２：２種類の動き、日常の範囲内、まあまあ<br>１：１種類以下の動き、つかえていない |
| ④　動きの変化 | 速度や方向を変化させたり、複合的な動きで表現したり、動きを繰り返したりしている。 | ３：たいへんよくできている<br>２：まあまあできている<br>１：できていない |
| ⑤　動きの確かさ | 表現したいと思う動きを体全体や細部を使って意識的に行っている。 | ３：たいへん意識的にできている<br>２：まあまあ意識的にできている<br>１：できていない |

・評価者 A(保育経験のある大学院生、女、約 60 分)
・評価者 B(保育経験のある大学院生、男、約 90 分)
・評価者 C(幼児発達心理学研究者、女、約 80 分)
・評価者 D(美術科学部生、女、約 40 分)
・評価者 E(美術科学部生、女、約 60 分)
・評価者 F(美術研究者、男、約 120 分)

描画表現の変容を捉えた評価者の評価の分析は、大谷[6]が示した、SCAT(Steps for Coding and Theorization)という方法を一部改編して行った。文字に起こした評価者の言葉をテクストとし、セグメント化する。セグメント化したテクストから、注目すべき語句を抜き出し、「テクスト中の注目すべき語句」に記入した。抽出した語句を、別の語句で言い換え、「テクスト中の語句の言い換え」に記入した。それをさらに言い換えた語句を「概念」として、記入した。本研究では、描画表現の変容を捉えた評価者の評価を分析するため、身体表現前の絵だけに関わる語句は、抽出しないこととした。また、本研究では、１つのテクストが短いため、ストーリーラインは作成しないこととしたが、ある程度、SCAT に依拠して分析を行なった。

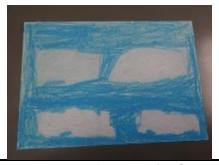
## Ⅲ結果と考察

### 1 描画活動の変容が捉えた「身体表現活動によって得られるもの」

本研究のテクストから、身体表現前と身体表現後の描画活動の変容が捉えた「身体表現活動によって得られるもの」が抽出された。抽出された各状況に、概念を命名し、各概念をカテゴリー化した。概念は 22 個、カテゴリーは 5 個作成できた。それを示したものが表 2 である。

表 2 のように、各概念を命名し、カテゴリー化した根拠を、代表的な評価テクストをもとに、そのテクストから抽出された状況から説明する。テクストの中の下線は、各概念が抽出された部分である。ひとつのテクストからは、他の概念を表す部分が含まれる場合もある。2 枚の描画は、テクストの対象となった身体表現前と身体表現後の描画である。

以下、「題材の捉え方が自分なりになった」と捉えられた、H-6 児を例に挙げる。



<e-1>　H-6 児　評価者 C
でもこんな色があったら素敵だなってのを描いたのかな　だからこの、見たものを描きましょう、見たものを描きましょうとは言ってないけど、そういう教示とは違うこの子なりの自由な感じが出ててこれも素敵な絵だね

<e-2>　H-6 児　評価者 E
雲って感じですね、きっとこの子は写真を上手に描いたんだなと思います　こっちは自分の好きな色とか自分の好きな形を自由に描いているので、自分らしさが出ているなと思います

図１　「題材の捉え方が自分なりになった」と捉えられた H-6 児の描画とテクスト

評価者 C は、身体表現前の絵と比較して、後の絵を、「この子なりの自由な感じが出てて」と解釈している。評価者 E は、身体表現の前の絵と比較して、後の絵を、「自分らしさが出ている」と解釈している。<e-1><e-2>より、身体表現の後は、「題材に対する捉え方が自分なりになった」様子が捉えられた。したがって、この様子が捉えられる状況を、「e 題材イメージの個性化」と命名することとし、「題材に対す

るイメージの変容」のカテゴリーに分類された。

表２　描画活動の変容から捉えられた「身体表現活動によって得られるもの」の概念

| 本研究のテクストから抽出された状況 | 概　念　名 | カテゴリー |
|---|---|---|
| 描画活動の変容から（～～～～）様子が捉えられた | | |
| 題材の捉え方がより具体的で描写的になった | a 題材イメージの具体化 | 題材に対するイメージの変容 |
| 題材に対する捉え方がはっきりした | b 題材イメージの明確化 | |
| 題材に対する捉え方が変化した | c 題材イメージの変化 | |
| 題材に対する捉え方が広がった | d 題材イメージ（発想、想像）の広がり | |
| 題材に対する捉え方が自分なりになった | e 題材イメージの個性化 | |
| 題材に対する捉え方が独自（一般的でない）になった | f 題材イメージの独自化 | |
| 題材をもとにしたストーリー（時間的な展開）が生まれた | g 題材イメージの物語化（発展） | |
| 題材に対して興味を持った | h 題材への興味喚起 | 題材への興味・傾倒・志向（自分なりの志向や価値判断） |
| 題材に対して科学的な認知が進んだ | i 題材に関する知識の再統合 | |
| 題材に自分がなりきった | j 題材への自己投影 | |
| 題材に感情移入した | k 題材への感情移入 | |
| 題材が擬人化された | l 題材の擬人化 | |
| 題材の「動き」を意識した | m 動きへの意識 | 表現要素への気づき |
| 題材の「形」を意識した | n 形態や図形への意識 | |
| 空間への意識が生まれた | o 空間への意識 | |
| 色彩に対する意識が生まれた | p 色彩への意識 | |
| 開放感が溢れた（大胆さ、率直さ、けれんみのなさ） | q 開放感 | 自己変容 |
| 楽しい気持ちが溢れた | r 感情の表出 | |
| 迷いが生まれた、深く考えた、考え直した | s 思考の現れや変化 | |
| 描画活動への意欲が喚起された | t 生活（行為全般）への意欲喚起 | |
| 他者の行為を気にする<br>他者の模倣をする | u 他者への意識の顕在化 | 他者意識 |
| 他者とかかわろうとする | v 他者との同調、共有、共感 | |

## ２描画活動の変容が捉えた「身体表現活動によって得られるもの」の複合化

評価テクストから抽出した状況が、単一で現れるのではなく、複合的に現れているということを、「自己変容」「他者意識」として捉えた、A-1 児のテクストをもとに説明する。

表３「自己変容」「他者意識」として捉えた A-1 児のテクスト

| |
|---|
| 評価者 C<br>で、それがもっと豊かになっちゃいましたって感じ？写真もないし、規制もかかってないし、好きな雲描こうって言われたからもう楽しくなっちゃって(r)(q)、いろんな、でもこの子得意なんだね、だってうまいもん、上手上手　でもさっきもこの子ト音記号描いてるし、他の子もト音記号描いてる、ほら　いっぱいト音記号、これ同じ構図(u)なんだって　こういうものが何かあるのか　なんだこれは　これも一応雲が出てきてるよね、何かしらの形で表現にすっと乗っかってきてるね |
| 評価者 D<br>楽しい(r)、この色が好きだからこんな雲があったらいいなとかそういうのが強く出ていると思います　で、やっぱり同じようにこのかぼちゃの顔の雲だとか、雪だるまの雲描いてる子何人かいたんですけど、近くで描いたのか仲良しなのか(v)と思うんですけど、似たような中でも、それぞれの好きな要素がちょっとずつ違いが出ているなと思います　やっぱり楽しそうな顔が追加されているのも特徴だなとも思います |
| 評価者 F<br>これもやっぱり好きなものがいっぱい出てきてるんですけど、同じように雲に顔が出てきてますよね　もしかしたら男の子と女の子みたいに友達を描いてるようにも見えますね(v)　大きな違いというと、雲は雲としてこんな楽しい形の雲だよねって言ってるのが最初だとしたらこちらは、自分たちが雲になっておもしろいものを楽しんでる(r)っていうか、お友達を描いてるようにも見えて(v)、その違いはあるように見えますね |

各評価者のテクストから、「r 感情の表出」「q 開放感」「u 他者への意識の顕在化」「v 他者との同調、共有、共感」を表す言葉が見られた。このことから、表現の仕方は異なるが、各概念が含まれる「自己変容」「他者意識」のカテゴリーが、１人の子どもの評価に、複合して現れていることがわかる。

### 3 身体表現から捉えた描画表現の変容

身体表現から捉えた描画表現の変容を、考察することとした。以下、A-26 児を例に挙げる。図 2 は、身体表現の評価得点の平均を示したものである。

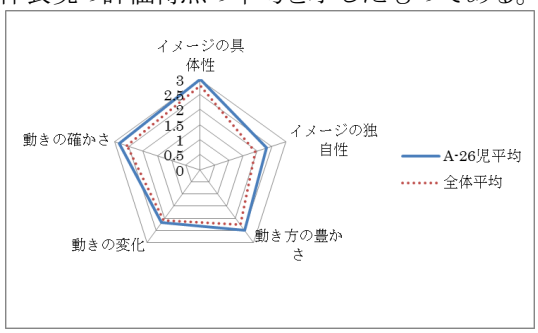



図 2　A-26 児の平均点と全体の平均点

A-26 児の身体表現は、動きのあるものを表現するときの動きが大きく、全身を使って表現する様子が見られた。評価得点も、「動き方の豊かさ」「動きの変化」「動きの確かさ」の平均が子ども全体の平均を上回っている。また、「イメージの具体性」の平均も非常に高い。具体的なイメージをもつことで、動き始めが速かったり、雷の激しさを全身で表現したりといった姿が見られたことが考えられる。

身体表現において、以上のような姿が見られた A-26 児の描画表現がどう変容したかを考察した。

表 4　身体表現で「動き」が捉えられた A-26 児のテクスト

| |
|---|
| 評価者 A<br>雷も描いてあるから　物よりも動きがやっぱり出てきてる(m)かな絵が動いてる(m)っていうか　あっち行ってこっち行ってっていう線が、楽しい線がでてきてる(m)(o)なって思います |
| 評価者 B<br>こっちにいくと今度塗りこむ部分みたいなのは減るけど構図がすごいおもしろいなと、雲が 1 つってわけじゃなくて雷雲が重なって(o)いて、その間を雷が走ってる　実際に雲の中にだってかみなり走ってたりするし、これくらいね、雲もあるんだろうなって思うと、画面いっぱい使って描いた表現前と、ていうか画面いっぱいにいろんなもの描いたよっていうものと、画面いっぱいに一つの物描いた(b)んだっていうので、同じ大きな画面の使い方でも変わるんだなって思いますねより描きたい雲の主張が強い(b)のかなって表現後は感じます |
| 評価者 C<br>おもしろいね、何重にもなってる(o)もんね　おもしろいね　でもこれはエネルギーって感じはあんまりしない　しゃしゃしゃしゃーって描いた感じ(m)がするな　でも印象に残ったから描いたんだろうね |
| 評価者 D<br>雷と雨の雲だと思うんですけど、この線が、線を遊んで楽しんで(m)ように感じます　たぶんこの表現のときの動きが絵に影響している(m)のかなと想像できます |

各評価者のテクストから、「m 動きへの意識」「o 空間への意識」「b 題材イメージに対する明確化」を表す言葉が見られた。これらの言葉から、描画表現においても、線の動きや、動きそのものを楽しむ様子が見られたと捉えられている。また、重なった雲を画面いっぱいに大きく描いていることから、画面の空間を意識しているということや、「雲」という題材に対する捉え方が明確になったということが捉えられている。

A-26 児の身体表現では、動きがダイナミックだったり、動き方を工夫したりといった、動きを意識している様子や、他児とくっつくことで大きな雲を表現することや、しゃがんで、跳んでという体の高低、その場で回転するなど、空間を意識している様子が見られた。そういった意識が、身体表現活動のなかで生まれることによって、描画表現においても、動きがそのまま線に表れたり、複数の他児と隣り合って大きな雲を表現したことで、雲を立体的なものに捉え、空間を意識した、重なりのある雲が表れたりしたということが考えられる。

## Ⅳ結論

描画活動の変容が捉えた「身体表現活動によって得られるもの」は 5 つのカテゴリーに分けられ、「題材に対するイメージの変容」「題材への興味・傾倒・志向（自分なりの志向や価値判断）」「表現要素への気付き」「自己変容」「他者意識」とすることができた。また、評価テクストを検討したところ、一人の子どものテクストから抽出した状況は、1 つではなく、複数見られた。したがって、5 つのカテゴリーは、単一に現れるものではなく、複合して現れるものであることがわかった。

描画表現の変容から、身体表現活動で得ているものが抽出されたが、これが実際の身体表現と関係があるのかを検証した。身体表現活動の評価得点や、捉えられた様子は、そのまま描画表現にも表れている傾向があることがわかった。したがって、身体表現で得られるものとして抽出したカテゴリーは、確かに、実際の身体表現の様子でも認められる。このことから、カテゴリーは、妥当性があるということがわかった。また、描画表現の変容を手立てとしたという、研究の方法も妥当であったことが言える。

### 引用文献


1)鈴木裕子・西洋子・本山益子・吉川京子　2003　幼児期における身体表現の特徴と援助の視点　舞踊学 25, 23-31
2) 鈴木裕子　2013　保育者の資質能力としての身体表現の理解　保育学研究　51,3,175-178
3) 古市久子　2013　保育表現技術 - 豊かに育つ・育てる身体表現 -　ミネルヴァ書房　p3
4) 平井タカネ　2004　リズム身体表現後の描画に関する一考察：樹木画を中心に　奈良女子大学スポーツ科学研 6,71-78
5) 鈴木裕子　1999　幼児の身体表現におけるイメージと動きの相互作用 - 題材と言葉がけの違いの視点から - 名古屋柳城短期大学研究紀要 21, 157-170
6) 大谷尚　2011　質的研究シリーズ SCAT:Steps for Coding and Theorization－明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法　感性工学 10(3), 155-160